

◇しずおか就職氷河期世代活躍支援プラットフォーム事業実施計画における目標及び令和5年度の実績・評価

支援対象	目標および目標値（2年間）	令和5年度における評価	事業計画に記載されているKPI	令和5年度におけるK P Iの進捗状況	K P I進捗状況の評価結果
不安定な就労状態にある方	正規雇用を希望しながら不安定な就労状態にある方について、現状よりも良い処遇を目指すため、支援対象者の正規雇用者数を増やすことを目標とする。	○ハローワークに設置したミドル・チャレンジコーナー（就職氷河期世代相談窓口）でのチーム支援の実施、限定・歓迎求人確保、助成金制度の活用等の取組を進めた結果、ハローワーク紹介による正社員就職件数のK P Iは、進捗率65.3%と順調に推移しているが、助成金活用による正社員転換数のK P Iは、進捗率35.5%となり目標の2分の1に届かなかったため、引き続き、制度の周知を徹底する。 ○「しずおかジョブステーション」に関するK P Iのうち、就業者数のK P Iは進捗率53.9%と順調に推移しているものの、就職氷河期世代支援サポーターが行う相談件数のK P Iは進捗率34.2%と目標の2分の1に届かなかったため、休日相談が可能な点を強調するなど工夫して周知を行い、在職求職者の相談件数を確保していく。	①ハローワーク紹介による正社員就職件数（就職氷河期世代）：2年間で5,000件 ②キャリアアップ助成金による正社員転換数：2年間で5,260人 ③「しずおかジョブステーション」で支援した就職氷河期世代の就業者数：2年間で360人 ④しずおかジョブステーションに配置した就職氷河期世代就職支援サポーターが行う相談件数：2年間で6,600件	①正社員就職件数は3,267人、進捗率65.3%となり、年間のK P I（2分の1）は達している。 ②キャリアアップ助成金の正社員転換数は1,868人、進捗率35.5%となり、年間のK P I（2分の1）に到達していない。 ③「しずおかジョブステーション」で支援した就職氷河期世代の就業者数は194人、進捗率53.9%となり、年間のK P I（2分の1）は達している。 ④「しずおかジョブステーション」に配置した就職氷河期世代就職支援サポーターが行う相談件数は2,262件、進捗率34.2%となり、年間のK P I（2分の1）に到達していない。	①K P Iの達成状況からも目標に向けた取組は概ね順調と思料する。令和2年4月から、ハローワーク静岡・浜松に設置している「ミドル・チャレンジコーナー（就職氷河期世代専門窓口）」でのチーム支援の取組等により、成果が出ていると考えられる。 ②K P Iは未達成となっている。その理由として、雇用情勢の改善に伴い、人手不足により労働者の確保が難しく対象者が減少していることや、求職者の転職行動が活発化していることを背景に、支給申請に至る前に対象労働者が離職しているケースもみられたことが考えられる。事業主から従業員への定着について相談があった際には、雇用管理改善指導など必要な支援を行うとともに、引き続き、本助成金の周知を徹底する。 ③K P Iの達成状況からも目標に向けた取組は概ね順調と思料する。コロナ禍を抜け、企業の採用意欲の回復や、求職者の行動が活発化したことを背景に、マッチング会・セミナー等を開催するとともに、就職支援サポーターが利用者の就業意欲を高め、就業数の増加につながったと考えられる。 ④K P Iは未達成となっている。その理由として、企業の人出不足感が増し、売り手市場となっており、多様化している民間の就職支援サービスを通じて、比較的容易にマッチングに繋がったことで、窓口での相談件数が減少した要因と考えられる。そのため、在職求職者の取込を強化することも必要であることから、今後は、周知にあたって休日における個別相談が可能な点を強調するなど内容を工夫するなどにより、相談件数を確保していく。
長期にわたり無業の状態にある方	就業を希望しながら、様々な事情により求職活動をしていない長期無業の状態にある方については、働くことや社会参加を促すことで本人に合った形で支援を行う必要があることから、地域若者サポートステーションを中心に、関係機関と連携しながら職業的自立につなげることを目標とする。	○サポステの支援について、特設ホームページやオンライン説明会等によるほか、企業向け及び求職者向けのセミナー（サポステの周知もメニューに含む）への積極的な誘導（YouTube動画、駅構内サイネージ広告、電車中刷り広告、商工会議所等の会報誌への企業向けチラシの折り込み広告）により周知を図ったが、新規登録者数のK P Iの進捗率は36.1%、サポステの支援により就労につながった件数のK P Iの進捗率は38.9%となり、2項目ともK P Iの2分の1に届かなかった。そのため、YouTube動画の追加、アウトリーチ型支援の強化等により、サポステの周知等の取組の広報を強化し、新規登録件数を確保するほか、サポステ職員の支援スキルの共有及び向上を図ることを検討する。	①サポステへの新規登録件数：2年間で1,200件 ②サポステの支援による就労につながった件数：2年間で720件	①サポステの新規登録件数は434件、進捗率36.1%となり、年間のK P I（2分の1）に達していない。 ②サポステの支援による就労につながった件数は280件、進捗率は38.9%となり年間のK P I（2分の1）に達していない。	①K P Iは未達成となっている。その理由として、施設やサービスについての認知不足や、雇用情勢の改善に伴い従前からの利用者の就職意欲が高まり、サポステにおいて一時的に継続相談及び定着支援に力点を置かざるを得ない状況があったことから、新規の取込が低調となった要因と考えられる。 今後は、オンライン説明会やホームページ等による周知に加えて、既存のYuoTube動画を追加、出張相談などのアウトリーチ型支援に強化、関係機関が主催するセミナーの日程を在職者が参加しやすくなるよう調整の上でサポステのサービスを周知するなど、取組を強化する。 ②K P Iは未達成となっている。その理由として、（上記のとおり）新規登録者が低調であったことや、職員の入れ替わりにより、支援スキルの蓄積および向上に課題があったことが考えられる。 今後は、関係機関とも連携して、広報に関する取組を強化するとともに、本省が開催するサポステのブロック研修に参加し、サポステ間でも連携して支援スキルの共有及び向上を図ることを検討している。
社会参加に向けた支援を必要とする方	支援対象者やその家族の実態やニーズに応じた、就労に限らない多様な社会参加に向けた支援を可能とするため、市町レベルのプラットフォームにより、支援体制の充実を図り、支援対象者と社会のつながりが生まれることを目標とする。	○専門的見識を備えるアドバイザーを、希望があった市町に派遣して助言支援、研修会の開催など、市町におけるひきこもり相談支援体制の整備を行い、アドバイザー派遣回数は目標の2分の1を達成し、「居場所」の利用者数は、2年間の目標をすでに達成したことから、支援体制の構築は順調に図られていると考え、引き続き周知を図っていく。	①就職氷河期世代の引きこもり状態にある人の「居場所」利用者数：2年間で590人 ②市町のひきこもり相談支援体制整備にかかるアドバイザー派遣回数：2年間30回	①就職氷河期世代の引きこもり状態にある人の「居場所」利用者数は、968人、進捗率は164.0%となり、K P Iの数字は達成している。 ②市町のひきこもり相談支援体制に係るアドバイザーの派遣回数は24回、進捗率は80.0%となり、K P Iの8割は達成している。	①K P Iの達成状況からも目標に向けた取組は概ね順調と思慮する。成果が出た理由として、インターネットによる検索運動型広告、ひきこもりに関する当事者・家族・市民向けの講演や研修等で支援情報を案内し、専門的見識を備えるアドバイザーを派遣して、相談支援体制の整備を支援したことが考えられる。引き続き、周知及び個別支援の取組を進めていきたい。 ②K P Iの達成状況からも目標に向けた取組は概ね順調と思慮する。順調な成果が出た理由として、30市町参加による「ひきこもり支援体制構築のための市町会議」を開催して周知を図り、インターネットの検索運動型広告により相談窓口等のひきこもりに関する支援情報を案内したことが考えられる。引き続き、周知及び個別支援の取組を進めていきたい。